

●具体的な研修項目一覧

2024/12/2改定

領域のテーマ	研修番号	項目	研修カリキュラムに記載されている文言	〈具体例：関連する研修事例〉
Ⅰ. 医療倫理と法令を順守する	I-1	薬剤師の使命と責任	生命の尊さを認識し、臨床現場における生命倫理の重要性を理解する。	薬剤師の使命、ヒューマニズム、インフォームドコンセント、患者の権利、終末期医療、医療倫理、倫理観
	I-2	医療制度	質の高い医療を提供するため、医療に関する制度を理解する。	医療保険制度、DPC、高齢者医療制度、介護保険制度、診療報酬制度、介護報酬制度、公知申請制度、医薬品副作用救済制度、生物由来製品感染等被害救済制度、公費負担制度、特定疾患治療研究事業（難病対策）
	I-3	法令順守	質の高い医療を提供するため、薬剤師業務に関わる法律を理解する。	医療法、薬機法、薬剤師法、介護保険法、健康保険法、麻薬及び向精神薬取締法、毒物及び劇物取締法、道路交通法、その他、法令・規則に関わること
Ⅱ. 基本的業務の向上を図る	II-1	調剤	患者情報を収集し、薬歴に基づいた処方監査、疑義照会を経て、調剤し交付する。	処方監査、処方解析、注射剤調剤、無菌的混合調製、疑義照会、簡易懸濁法、調剤機器
	II-2	製剤	ガイドライン等に準拠し、必要な院内手続を経て、品質を保証した製剤を供給する。	院内製剤、クラス分類、品質管理、院内手続、院内製剤の調製及び使用に関する指針
	II-3	医薬品情報	適正使用のための医薬品情報を収集・評価し、適切に情報提供する。	後発医薬品、添付文書、インタビューフォーム、安全性情報、市販後調査、健康食品、サプリメント、中毒情報、適応外使用、リスクマネジメントプラン（RMP）、医療DX、電子お薬手帳、電子処方箋、フォーミュラリー
	II-4	医薬品管理	医薬品の適正使用を目的として、品質の確保などに則り適正な医薬品等の管理・供給の役割を担う。	在庫管理、SPD、麻薬、毒薬、向精神薬、血液製剤、放射性医薬品、診療材料、医薬品安定供給
	II-5	マネジメント	業務の適正化、職能拡大のために経営的視野を含めたマネジメント力を養成する。	病院経営、医薬品コスト管理、薬剤経済効果、人事マネジメント、働き方改革
	II-6	教育・研究	質の高い医療人養成を目指した実務実習を支援し、医療の高度化、多様化に対応できる研究マインドをもつ。	実務実習、モデルコアカリキュラム、臨床研究、臨床研究に関する倫理指針、研究倫理、文献検索・比較方法、統計学、論文、治験、研修・認定制度（認定・専門薬剤師を含む）、事例報告、卒前・卒後教育
Ⅲ. チーム医療を実践する	III-1	病棟・外来業務（医療コミュニケーション）	患者に最適な薬物療法を提供するため、治療効果の向上と副作用の防止に努め、チーム医療を実践し、患者の利益に貢献する。	薬歴、薬学的管理、ハイリスク薬、服薬アドヒアランス、処方設計、処方提案、薬物相互作用、バイタルサイン、フィジカルアセスメント、検査値、副作用モニタリング、レジメン管理、コミュニケーションスキル、カウンセリング、コーチング、医療面接、臨床推論、ポリファーマシー
	III-2	連携	薬剤師の役割を理解し、職種間・施設間で協働して薬物療法を支援する。	病薬連携、薬薬連携、病診連携、地域連携、多職種連携、救急医療、災害医療、予防医療、地域医療（プライマリ・ケア）、在宅医療、クリニカルパス、プロトコル、緩和医療、トレーニングレポート、タスクシフト・シェア、薬物乱用防止、チーム医療、他職種の活動
Ⅳ. 医療安全を推進する	IV-1	リスクマネジメント（医薬品安全管理）	医療事故は日常的に起こり得ることを認識し、適切な情報を基にした医薬品の安全使用をはじめ、安心・安全な医療を実践する。	ヒヤリハット、事故事例分析、医薬品安全、医療機器安全、プリアボイド、放射線被曝、抗がん剤曝露、医薬品安全管理手順書、災害・緊急事態への備え、未承認新規医薬品等使用
	IV-2	感染制御・管理	消毒薬、抗菌薬の適正使用など、感染制御・管理を通じて安全で適切な環境作りを支援する。	院内感染、感染対策、耐性菌、抗菌薬適正使用、消毒薬、サーベイランス、予防接種
Ⅴ. ファーマシューティカルケアを実践する	V-1	医薬品（製剤）特性	医薬品（製剤）の特性を理解し、適切な薬物療法を支援する。	薬物動態学、薬力学、TDM、PK/PD、ADME、薬物相互作用、副作用、漢方、DDS、生物学的製剤、抗体医薬品、バイオシミラー、輸液、医療機器、医療材料、栄養
	V-2	疾病・薬物療法	疾病と病態を理解し、適切な薬物療法を支援する。	〈ICD10（国際疾病分類）〉 感染症・寄生虫症、新生物、血液・造血器・免疫疾患、内分泌・代謝・栄養疾患、精神・行動障害、神経系疾患、眼・付属器疾患、耳・乳様突起疾患、循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患、皮膚・皮下組織疾患、筋骨格系・結合組織疾患、尿路性器系疾患、妊婦・分娩・産褥、周産期、先天奇形・染色体異常、異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの、損傷・中毒・その他の外因の影響（食事・運動療法を含む）、ガイドライン解説
	V-3	患者特性	患者特性に応じて、適切な薬物療法を支援する。	小児、高齢者、妊婦・授乳婦、肝・腎機能低下患者、個別化医療、ゲノム医療